

子どものけいれんについて

川口市立医療センター

小児科 すずき 鈴木 とも のり 智典



子どもは神経系の発達が未熟なため、けいれんを起こしやすく、その原因はさまざまです。原因として最も多いのは、^{かんぼう}感冒などの発熱に伴う熱性けいれんです。多くは1歳前後で発症し、短い発作であれば後遺症を残すことはまずありません。しかし、同じ発熱時でも、発作時間が長い場合や意識状態が悪い場合には、脳炎や髄膜炎の疑いがあり注意が必要です。また、胃腸炎に合併して短いけいれんを群発することがあり、これを胃腸炎関連けいれんと呼びます。無熱時のけいれんには、てんかん、血管迷走神経反射、不整脈、電解質異常など、さまざまな原因が考えられます。

子どもがけいれんを起こした際、驚いて何度も名前を呼んだり、揺すって刺激したりする親御さんを見かけますが、刺激でけいれんが止まることはありません。最も大事なことは呼吸を保つことです。仰向きでは吐物で気道が塞がれる恐れがありますので、必ず横向きに寝かせて気道を確保し、すぐに止まる様子がなければ救急車を呼んでください。また、すぐに止まった場合でも、治療を急ぐケースがありますので、早めに病院を受診してください。その際、発作の様子をよく観察し、余裕があれば動画に記録していただくと、けいれんの原因を調べる上で大変役に立ちます。

子どもがけいれんを起こした際には、以上のことに注意して慌てず適切に対応し、速やかに病院へ引き継いでください。